広報ふっさ

FUSSA

平成20年(2008年)
11月1日　No. 770

発行/福生市　編集/企画財政部秘書広報課
〒197-8501 福生市本町5
☎042-551-1511（市役所代表）
毎月1日・15日発行

ホームページ http://www.city.fussa.tokyo.jp/

今号の主な記事

2面都営住宅入居者募集　3面年末調整等説明会　4面女性に対する暴力をなくす運動期間です
5面11月は児童虐待防止推進月間　6面市農産物共進会　7面軽スポーツ＆とん汁会　8面協働でコスモスが咲きました

メッセージイベントを開催
11月11日は介護の日です！

今年から11月11日（いい日いい日）が「介護の日」になりました。介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、地域社会における支え合いや交流を促進するため、市民の方にも気楽に参加していただけるイベントを実施します。

メッセージイベント

日時 11月11日㈫～14日㈮午前9時～午後4時
場所 市役所1階ロビー
内容 各種福祉用具（移動用リフト・介護ベッド・入浴補助用具・リハビリシューズ等）の展示・住宅改修事例展示・電動車椅子試乗体験・認知症への対応相談・介護相談コーナー※11月11日㈫には訪問入浴車の展示、13日㈭には住宅改修車の展示も行ないます。
問合せ 介護福祉課介護保険係☎551・1764

■介護保険制度とは

この制度は、40歳以上の市民が保険に加入して、老後の不安要因である介護を、介護する人、介護される人の両方が安心して暮らせるよう社会全体で支えあうために作られた制度です。

■介護保険料は

①第1号被保険者（65歳以上）
市の介護サービスに必要な費用のうち、65歳以上の方の保険料で負担すべき分を65歳以上の人数で割った平均的な額を基準とし、所得に応じて6段階に設定しています。

②第2号被保険者（40歳以上65歳未満）
加入している医療保険の算定方法に基づいて設定されます。

■介護サービスを利用できる方は

65歳以上の「第1号被保険者」と、40～64歳の「第2号被保険者」の特定疾病の方で、介護が必要と認定された方です。

■介護が必要になったら

まず、市役所介護福祉課に申請してください。（申請の手続きは、指定居宅介護支援事業所、介護保険施設、成年後見人、地域包括支援センターなどで代行してもらうこともできます。）

申請が受け付けられると、認定調査員（市の職員や市から委託を受けた居宅介護支援事業者等の介護支援専門員）が家庭等を訪問して、心身の状態などについて全国共通の調査票にもとづき、質問事項をお尋ねします。日頃の状況をそのまま見せてください。

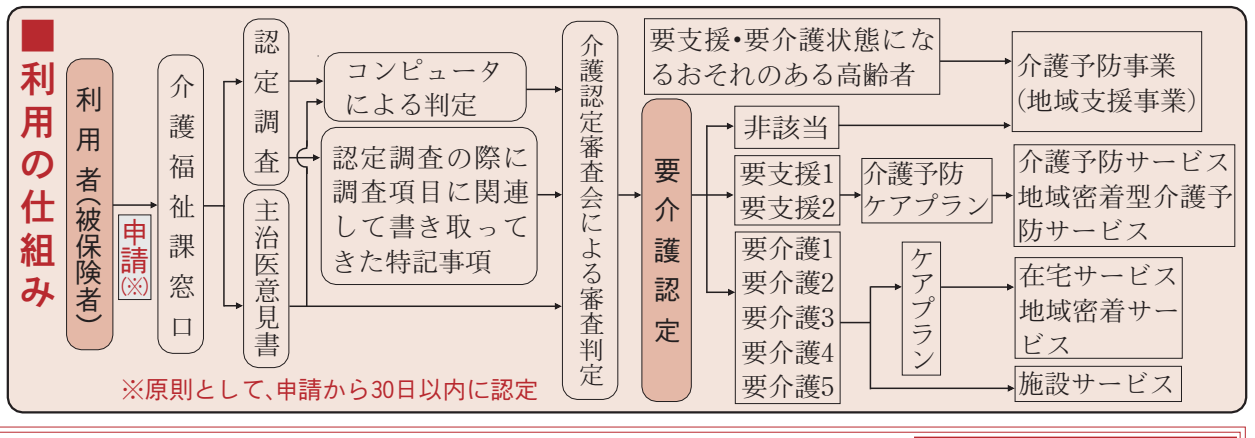
この調査結果をコンピューターに入力すると一次判定がでます。次にかかりつけの医師からの意見書と、調査の際に書き取ってきた特記事項がそろったところで、介護認定審査会にかけて審査判定をします。

介護が必要な度合い（要介護度）や、保険で認められる月々の利用額などが決まり、本人に通知されます。

申請はいつでもできます。すでに認定を受けている方でも、心身の状態が変化した場合などは、変更申請をすることができます。

■サービス利用の苦情・介護保険の相談は

東京都国民健康保険団体連合会で受け付けますが、まず市役所介護福祉課に相談してください。火～金曜日（午前9時～午後4時）は、介護保険相談員が相談に応じています。



広報ふっさ紙面にＳＰコードを本格導入！

目の不自由な方の情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」（下図参照）を、広報ふっさ5月1日号の紙面より本格的に導入しました。ＳＰコードは縦横18㎜の大きさに、日本語で約800文字の文字データを納めることができ、専用読取装置を使うことで、コードに記録されている文字情報を音声で聞くことができます。

毎月1日号の1・3・5・7面の記事をそれぞれ抜粋してコード化し、触って位置がわかるように半円状の切り込みを入れています。

問合せ 秘書広報課広報広聴係☎551・1568

全力投球

福生市長 加藤育男

だれでもなんでも展にて

地域デビュー

先日、松林会館の「だれでもなんでも展」に行ってきました。書や絵画・陶芸・ステンドグラス等の展示からウクレレ演奏に至るまで、様々な分野で自己を表現されていて、そのレベルの高さに感心させられました。

また印象に残ったのは、市民活動サークルの皆さんのまぶしいほどのはつらつとした表情です。改めて、地域の中での人の交流の大切さを学ばせていただきました。

サークルの中にお一人、団塊の世代で、退職後の地域デビューで、初の作品だと少し恥ずかしそうに話をされていた方がいました。

私自身は昭和29年生まれで、団塊の世代のすぐ後に位置しますが、年代的に同様の心情を有すると思っています。

若い人達と比べると自分自身の時間の使い方が下手で、いわゆる「仕事人間」に分類されると思われます。特に多くの男性は、退職後なかなか地域社会に溶け込みにくいのが現状です。

市では「団塊の世代のための地域活動ガイドブック」を作成し、団塊の世代の方々の地域デビューを全面的に支援しています。関心を持って、一度目を通していただければ幸いです。世界が広がると思いますよ。